



平成29年2月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年10月7日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 吉野家ホールディングス
コード番号 9861 URL <http://www.yoshinova-holdings.com>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 河村 泰貴

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 グループ企画室長 (氏名) 松尾 俊幸

TEL 03-5651-8800

四半期報告書提出予定日 平成28年10月11日

配当支払開始予定日

平成28年11月8日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年2月期第2四半期の連結業績(平成28年3月1日～平成28年8月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年2月期第2四半期	93,481	0.5	945	△20.7	1,178	△20.6	1,574	137.4
28年2月期第2四半期	92,982	4.5	1,192	△33.3	1,485	△25.8	663	△32.5

(注) 包括利益 29年2月期第2四半期 137百万円 (△74.3%) 28年2月期第2四半期 537百万円 (△39.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年2月期第2四半期	24.40	—
28年2月期第2四半期	10.47	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年2月期第2四半期	117,125	57,467	48.7
28年2月期	111,292	57,733	51.7

(参考) 自己資本 29年2月期第2四半期 57,027百万円 28年2月期 57,493百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年2月期	—	10.00	—	10.00	20.00
29年2月期	—	10.00	—	—	—
29年2月期(予想)	—	—	—	10.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年2月期の連結業績予想(平成28年3月1日～平成29年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	193,000	3.9	3,400	110.7	3,800	62.0	1,900	126.9	29.45

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

29年2月期2Q	65,129,558 株	28年2月期	65,129,558 株
29年2月期2Q	606,814 株	28年2月期	605,829 株
29年2月期2Q	64,523,302 株	28年2月期2Q	63,339,700 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 経営成績に関する説明	P. 2
(2) 財政状態に関する説明	P. 3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	P. 4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	P. 4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	P. 4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	P. 4
(4) 追加情報	P. 4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	P. 4
4. 四半期連結財務諸表	P. 5
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P. 7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	P. 9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P. 11
(継続企業の前提に関する注記)	P. 11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 11
(セグメント情報等)	P. 11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループでは、10年先を見据えた長期ビジョン「NEW BEGINNINGS 2025」の実現を目指し、当期より「新3カ年中期経営計画」を始動いたしました。当期を含むファーストステージの3年間は、セカンドステージ以降における成長のシーズを生み出す3年間と位置付け、「ひと・健康・テクノロジー」をキーワードに、「飲食業の再定義」を目指し、これまでの飲食業になかった新しい価値創造にチャレンジしていきます。当期は、まず既存事業の収益性改善に向け、各セグメントにおいて新商品開発、店舗オペレーション改善、新たなマーケティング手法の導入等を行ってまいります。また、国内において、はなまるを中心とした出店による成長・規模拡大を進めております。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間（平成28年3月1日から平成28年8月31日まで）の連結業績は、連結売上高が934億81百万円（前年同期比0.5%増）、連結営業利益は9億45百万円（前年同期比20.7%減）、連結経常利益は11億78百万円（前年同期比20.6%減）、旧本社事務所譲渡による固定資産売却益を計上した結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は15億74百万円（前年同期比137.4%増）となりました。

セグメント概況につきましては、次のとおりであります。

[吉野家]

売上高は、484億10百万円と、対前年同期比1.7%の増収となりました。

増収の主な要因は、4月に「豚丼」を4年ぶりに「復活」販売したことや、5月には「吉呑み」の店舗を拡大しお客様に新たな吉野家のご利用機会を提供したこと、また前期に新登場しご好評をいただきました「麦とろ御膳」に滋養強壮効果の高い健康機能成分ジオスゲニンを加え、6月から販売したことなどで客数増加したことによりです。引き続き、品質にこだわり商品力の向上に努めてまいります。

長期ビジョン「NEW BEGINNINGS 2025」の実現の一環として、お客様への新しいサービススタイルの検証を開始し、店舗の改装、スマートフォンによる「デジタルボトルキープサービス」の導入を進めました。前期末に全店導入したTポイントを活用したお客様の動向分析とあわせて、お客様のニーズにお応えしてまいります。また従業員の労働環境については、ロボット技術の導入による作業負荷の軽減、動画を利用した教育評価システムの導入など、様々な取り組みを開始しております。セグメント利益は、増収等により、16億9百万円と、対前年同期比5.3%の増益となりました。同期間の店舗数は、22店舗を出店し、13店舗を閉鎖した結果、1,197店舗となりました。

[はなまる]

売上高は、119億53百万円と、対前年同期比10.9%の増収となりました。

増収の主な要因は、積極的な出店に伴う店舗数の増加によりです。駅前や駅ナカなどへの新立地及びショッピングセンター内への出店を引き続き進めてまいります。また季節商品として、6月に昨年ご好評をいただきましたとろろと海鮮松前漬を組み合わせた『海鮮松前とろろぶっかけ』、8月には涼感を感じいただける冷たいだしにオクラと針生姜を入れた『はなまる冷だしうどん』を販売致しました。しかしながら、既存店売上高は、前年の全社販促の反動等もあり、前年未達となったことや、出店増に伴う販管費増などから、セグメント利益は6億71百万円と、対前年同期比22.9%の減益となりました。同期間の店舗数は、27店舗を出店し、6店舗を閉鎖した結果、411店舗となりました。

[アークミール]

売上高は、116億44百万円と、対前年同期比6.2%の減収となりました。

当期は、「ステーキのどん」においては、ボリュームを訴求した「3代目横綱ハンバーグ」の販売を開始し、同時にハンバーグ200gのおかわり無料キャンペーンや、ステーキ食べ放題キャンペーン等を実施し、お客様からご好評いただきました。また、「どん亭」においては、季節限定商品「牛たんしゃぶしゃぶ」「うな重」を販売し、「フォルクス」においては、数量限定で約2ポンドの「プレミアムボーンステーキ」を販売し、「どん亭」と「フォルクス」においては、8月に10分100円飲み放題キャンペーンも実施いたしました。しかしながら、しゃぶしゃぶ業態における競争の激化による「どん亭」の客数減少の影響等で減収となり、セグメント利益は49百万円と、対前年同期比32.5%の減益となりました。同期間の出退店はなく、店舗数は186店舗です。

[京樽]

売上高は、126億40百万円と、対前年同期比1.4%の増収となりました。

増収の主な要因は、ご好評をいただいている“中巻セール”“まぐろ頭肉フェア”“(赤皿)99円セール”等を効果的に実施したこと等によります。また、回転鮪業態では、野菜と鮮魚を組合わせた「ベジ海鮮」を販売開始したほか、産地指定した旬の食材を用いた商品を販売するなど差別化を図りました。しかしながら、当期より出店を加速させている海鮮三崎港を11店出店したことによる出店費用の増加等により、セグメント利益は35百万円と、対前年同期比80.4%の減益となりました。同期間の店舗数は、15店舗を出店し、6店舗を閉鎖した結果、324店舗となりました。

[海外]

売上高は、80億95百万円と、対前年同期比7.2%の減収となりました。

米国や中国においては、既存店売上高が好調に推移しているものの、当期の円高の影響等により減収となりました。しかしながら、セグメント利益は、米国において食材価格が低下したこと等から、6億9百万円と、対前年同期比97.5%の増益となりました。同期間の店舗数は、48店舗を出店し、16店舗を閉鎖した結果、707店舗となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ58億33百万円増加し、1,171億25百万円となりました。これは主として、現金及び預金が35億87百万円、受取手形及び売掛金が8億65百万円増加したことによるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ60億99百万円増加し、596億57百万円となりました。これは主として、長期借入金が増加した52億90百万円増加したことによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ2億65百万円減少し、574億67百万円となり、自己資本比率は、前連結会計年度末比で3.0ポイント減少し48.7%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年2月期の連結業績予想(平成28年3月1日から平成29年2月28日まで)は、既に公表しておりますものから修正は行っておりません。なお、当該業績予想は、当社グループが現時点までに入手可能な情報から判断して、合理的であるとした一定の条件に基づいたものです。実際の業績は、「天候」「景気動向」等の様々な要因により異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更)

(減価償却方法の変更)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ16百万円増加しております。

(4) 追加情報

(連結財務諸表に関する会計基準等の適用)

「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日)第39項に掲げられた定め等を適用し、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

(法人税率の変更等による影響)

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成28年法律第15号)及び「地方税法等の一部を改正する等の法律」(平成28年法律第13号)が平成28年3月31日に公布され、平成29年3月1日に開始する連結会計年度から法人税率等が変更されることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は、従来の33.1%から、平成30年2月期及び平成31年2月期に解消が見込まれる一時差異については30.9%に、平成32年2月期以降に解消が見込まれる一時差異については30.6%にそれぞれ変更されております。

この税率変更により、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)が19百万円減少し、法人税等調整額が19百万円増加しております。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年2月29日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	21,287	24,874
受取手形及び売掛金	3,362	4,227
商品及び製品	4,387	4,131
仕掛品	22	34
原材料及び貯蔵品	4,430	4,803
その他	3,496	3,803
貸倒引当金	△2	△11
流動資産合計	36,984	41,863
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	28,008	28,575
その他(純額)	16,513	16,271
有形固定資産合計	44,521	44,847
無形固定資産		
のれん	1,055	1,647
その他	2,012	2,147
無形固定資産合計	3,067	3,794
投資その他の資産		
投資有価証券	4,278	4,030
差入保証金	15,189	15,429
繰延税金資産	1,622	1,683
その他	5,795	5,676
貸倒引当金	△167	△199
投資その他の資産合計	26,717	26,620
固定資産合計	74,307	75,262
資産合計	111,292	117,125

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年2月29日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年8月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,741	5,797
短期借入金	5,224	5,313
1年内償還予定の社債	-	750
1年内返済予定の長期借入金	7,665	7,969
リース債務	863	945
未払法人税等	551	554
賞与引当金	1,334	1,401
役員賞与引当金	79	36
株主優待引当金	292	281
資産除去債務	24	16
その他	9,785	9,782
流動負債合計	31,563	32,848
固定負債		
社債	750	-
長期借入金	14,477	19,767
リース債務	2,350	2,489
退職給付に係る負債	631	627
資産除去債務	2,454	2,545
その他	1,330	1,378
固定負債合計	21,994	26,808
負債合計	53,558	59,657
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,265	10,265
資本剰余金	11,560	11,551
利益剰余金	38,077	39,006
自己株式	△741	△742
株主資本合計	59,162	60,080
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△3	△7
為替換算調整勘定	△1,650	△3,033
退職給付に係る調整累計額	△14	△12
その他の包括利益累計額合計	△1,669	△3,053
非支配株主持分	240	440
純資産合計	57,733	57,467
負債純資産合計	111,292	117,125

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年3月1日 至平成27年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年3月1日 至平成28年8月31日)
売上高	92,982	93,481
売上原価	35,459	34,104
売上総利益	57,523	59,376
販売費及び一般管理費	56,331	58,431
営業利益	1,192	945
営業外収益		
受取利息	23	23
受取配当金	94	76
賃貸収入	179	172
持分法による投資利益	42	46
雑収入	290	352
営業外収益合計	631	671
営業外費用		
支払利息	139	128
為替差損	-	95
賃貸費用	133	131
雑損失	65	83
営業外費用合計	337	438
経常利益	1,485	1,178
特別利益		
固定資産売却益	-	1,484
特別利益合計	-	1,484
特別損失		
減損損失	264	201
契約解約損	33	7
災害による損失	-	24
特別損失合計	297	233
税金等調整前四半期純利益	1,187	2,429
法人税、住民税及び事業税	828	1,024
法人税等調整額	△306	△141
法人税等合計	521	882
四半期純利益	666	1,547
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	3	△26
親会社株主に帰属する四半期純利益	663	1,574

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年3月1日 至平成27年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年3月1日 至平成28年8月31日)
四半期純利益	666	1,547
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1	△3
為替換算調整勘定	45	△1,135
退職給付に係る調整額	28	2
持分法適用会社に対する持分相当額	△204	△272
その他の包括利益合計	△128	△1,409
四半期包括利益	537	137
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	527	190
非支配株主に係る四半期包括利益	10	△52

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年3月1日 至平成27年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年3月1日 至平成28年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,187	2,429
減価償却費	2,554	2,830
のれん償却額	111	108
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△43	41
賞与引当金の増減額(△は減少)	△69	60
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△35	△43
株主優待引当金の増減額(△は減少)	0	△11
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△5	△3
受取利息及び受取配当金	△118	△99
支払利息	139	128
持分法による投資損益(△は益)	△42	△46
固定資産売却損益(△は益)	-	△1,484
減損損失	264	201
売上債権の増減額(△は増加)	△69	△851
たな卸資産の増減額(△は増加)	△6,611	△186
仕入債務の増減額(△は減少)	△68	47
未収入金の増減額(△は増加)	835	△301
未払消費税等の増減額(△は減少)	△2,616	△100
その他	104	594
小計	△4,485	3,313
利息及び配当金の受取額	111	152
利息の支払額	△144	△130
法人税等の支払額	△1,678	△861
営業活動によるキャッシュ・フロー	△6,196	2,473

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年3月1日 至平成27年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年3月1日 至平成28年8月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△60	△25
定期預金の払戻による収入	195	58
有形固定資産の取得による支出	△4,093	△4,482
有形固定資産の売却による収入	10	2,981
無形固定資産の取得による支出	△162	△288
資産除去債務の履行による支出	△91	△55
差入保証金の差入による支出	△464	△429
差入保証金の回収による収入	371	266
貸付けによる支出	△103	△130
貸付金の回収による収入	76	84
投資不動産の取得による支出	△5	-
投資不動産の売却による収入	5	-
投資有価証券の取得による支出	△75	-
関係会社株式の取得による支出	△8	△34
関係会社出資金の払込による支出	-	△27
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	-	△539
その他	-	3
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,406	△2,619
財務活動によるキャッシュ・フロー		
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△554	△511
短期借入金の純増減額(△は減少)	3,154	158
長期借入れによる収入	12,150	9,700
長期借入金の返済による支出	△2,530	△4,143
配当金の支払額	△636	△647
非支配株主からの払込みによる収入	-	108
その他	△2	△1
財務活動によるキャッシュ・フロー	11,581	4,663
現金及び現金同等物に係る換算差額	20	△465
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	998	4,052
現金及び現金同等物の期首残高	26,858	18,498
現金及び現金同等物の四半期末残高	27,857	22,550

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成27年3月1日 至 平成27年8月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	吉野家	はなまる	アーク ミール	京樽	海外	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	47,126	10,703	12,419	12,396	8,725	91,371	1,611	92,982	—	92,982
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	472	72	0	75	—	620	203	823	△823	—
計	47,599	10,775	12,419	12,471	8,725	91,991	1,814	93,806	△823	92,982
セグメント利益 又は損失(△)	1,529	870	73	179	308	2,961	△95	2,866	△1,674	1,192

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、連結子会社6社を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,674百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,727百万円、セグメント間取引消去129百万円、及びのれんの償却額△76百万円が含まれております。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 平成28年3月1日 至 平成28年8月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	吉野家	はなまる	アーク ミール (注)4	京樽	海外	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	47,924	11,826	11,637	12,562	8,095	92,046	1,434	93,481	—	93,481
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	485	126	6	78	—	696	302	999	△999	—
計	48,410	11,953	11,644	12,640	8,095	92,743	1,736	94,480	△999	93,481
セグメント利益	1,609	671	49	35	609	2,975	7	2,983	△2,038	945

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、連結子会社7社を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△2,038百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△2,019百万円、セグメント間取引消去56百万円、及びのれんの償却額△75百万円が含まれております。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4. 前第3四半期連結会計期間より、株式会社どんの商号変更に伴い、「どん」から「アークミール」にセグメント名称を変更しております。また、当第2四半期連結累計期間の比較情報として開示した前第2四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の名称を用いて表示しております。

当該セグメント名称変更によるセグメント情報に与える影響はありません。

2 報告セグメントの変更等に関する事項

(報告セグメントの区分方法の変更)

前連結会計年度末に、当社グループ内の管理区分の見直しを行ったことにより、従来「はなまる」に属しておりました花丸餐飲管理と花楽商貿を「海外」セグメントの区分に変更しております。

なお、当第2四半期連結累計期間の比較情報として開示した前第2四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の報告セグメントにより作成しており、前連結会計年度の第2四半期連結累計期間に開示した報告セグメントとの間に相違が見られます。